

学校教育自己診断結果データ分析（令和7年度）

1．自己診断配付数及び回答数

令和7年度回答人数

	教員	生徒※	保護者	合計
配付	63	946	946	1955
回答	60	863	706	1629
%	95. 2	91. 2	74. 6	83. 3

2．観点別肯定率（肯定的回答の割合）

	R7年度	R6年度	R5年度	R4年度
【保護者】	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校に対する意識に関するもの	96	94	92	90
②学習指導に関するもの	78	78	78	76
③生徒指導、児童・生徒理解に関するもの	88	84	83	86
④進路指導に関するもの	90	86	89	89
⑤いじめに関するもの	90	88	88	88
⑥道徳教育・人権教育に関するもの	92	90	92	90
⑦情報提供に関するもの	88	85	89	89
⑧学校教育への参画に関するもの	83	84	85	85
【生徒】	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校に対する意識に関するもの	96	95	91	89
②学習指導に関するもの	92	92	90	88
③生徒指導に関するもの	87	84	81	82
④進路指導に関するもの	95	92	91	92
⑤いじめに関するもの	93	93	90	89
⑥教育相談に関するもの	79	81	77	74
⑦道徳教育・人権教育に関するもの	95	94	91	90
⑧特別活動、学校行事等に関するもの	99	98	97	95
【教員】	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校組織に関するもの	93	83	92	83
②教育活動の改善に関するもの	97	89	85	78
③学習指導に関するもの	97	92	89	92
④生徒指導に関するもの	90	92	92	81
⑤進路指導に関するもの	95	92	92	90
⑥いじめに関するもの	95	85	92	86
⑦教育相談に関するもの	92	81	92	86
⑧特別活動、学校行事等に関するもの	97	94	90	95
⑨保護者への情報提供に関するもの	98	87	89	83

3．分析

【学習指導】

○生徒への質問項目では、「授業を受けることで知識量が増えたり、技術が身についたりする」が95%、「ICTを使った授業はわかりやすい」が90%となり、学習指導については前年と同様の結果であった。また、保護者からは「内容がわかりやすく、ためになる授業が多い」と78%が回答しており、こちらも前年度と変わらなかった。一方、教員では「思考力を重視した問題解決的な学習を行っている」が97%となり、前年より5ポイント増加している。今後は、組織的な授業改善をさらに充実させ、学校教育目標である『第一希望の進路を実現する確かな学力の養成』の実現に努めていきたい。

【進路指導】

○「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」については、生徒が95%で前年より3ポイント増加した。また、保護者では「進路について適切な指導を行っている」が90%で前年度より4ポイント増加し、教員においても「一人ひとりにきめ細かい指導をしている」が95%で前年度より3ポイント増加するなど、いずれも高評価であった。今年度は、文理選択・科目選択を将来の目標から逆算して考えさせる取組を充実させたことによる効果が表れている。今後も「第一希望の進路の実現」を達成するため、大学や教育サービス等の外部教育機関を活用しながら、生徒・保護者・教員が連携し、効果的な進路指導を実施していく。

【教育相談】

○生徒への質問項目「学校には相談することができる先生がいる」は79%となり、前年度より2ポイント減少した。一方、教員への質問項目である「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる」は92%となり、前年度より11ポイント増加している。今後は、担任と生徒間のコミュニケーションに加え、生徒に関わるさまざまな教員にも気軽に相談できる体制の一層の充実を図っていく。日頃からの声かけや気づきを大切にしながら、生徒指導を行う。さらに、保護者からは「家庭連絡や意思疎通がきめ細かく、相談に応じてくれる」が80%と、前年度より4ポイント増加した。今後も、保護者の立場に立った相談対応をさらに推進していく。

【学校運営】

○「東住吉高校で満足した学校生活を送っている」については、生徒・保護者ともに96%が肯定的に回答しており、いずれも前年より増加している。また、「学校行事に楽しく参加している」の項目では、生徒が99%、保護者が95%と、いずれも非常に高い肯定的回答率となっている。さらに、教員においても「学校行事を生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている」が97%となっており、教員の取組が生徒の学校行事に対する満足度につながっているといえる。今後も、生徒がより一層充実した学校生活を送ることができるよう、組織的な行事運営を進めていく。